

平成 30(2018)年度 学校関係者評価報告書

学校法人 守末学園
仙台ヘアメイク専門学校

平成 30(2018)年度 学校関係者評価について

学校法人守末学園仙台ヘアメイク専門学校は、平成 11(1999)年の開校から昼間・通信の両課程を合わせて約 3000 名の卒業生を美容業界に輩出しました。この間、業界と美容を志す人々を結びつけ、双方にとって有益となるよう、教育内容の改善を図り、現場から必要とされる人材の育成に努めてまいりました。

本校は、職業実践専門課程の指定を受けており、より良い学校運営を実施することを目指して、学校評価に取り組みました。

学校自己評価を基に、学校関係者評価を学校関係者評価委員会にお諮りし、貴重なご意見やご指導をいただきました。誠にありがとうございました。

今後とも、教育の質の向上にこの評価の結果を生かしてまいります。

1 学校関係者評価委員会

(1) 学校関係者評価委員

- (委員長) 扇 功 氏 藤倉設備工業株式会社 取締役会長
(副委員長) 石 山 敬 貴 氏 東北大学・大学院農学研究科 助教
(委員) 守 末 佳 奈 氏 株式会社紀生 取締役ブライダル事業部長
(委員) 金 原 仁 氏 株式会社ビューティソフト開発 仙台支店長

(2) 事務局(自己評価委員会)

- ①守 末 紀 生(理事長・校長)、②守 末 な み(副校長)、③倉 橋 浩 志(事務長)
④相ノ山 祐 子(教務部長)、⑤板 橋 智 子(ビューティビジネス・ブライダルデザイン科長)

2 対象期間：平成 30(2018)年 4 月 1 日～平成 31(2019)年 3 月 31 日

3 実施方法、公表

- (1) 校内の「自己評価委員会」で「平成 30(2018)年度 学校自己評価報告書」を作成しました。
(2) 学校関係者評価委員会を開催し、ご審議の上、評価報告のご答申をいただきました。
(3) (2)を「平成 30(2018)年度 学校関係者評価報告書」としてまとめました。
(4) 評価結果の公開は、本報告書をホームページに掲載することにより行います。

4 評価項目に対する評価

評価項目別に委員会からの評価、意見、提案を報告します。

評価は、4～1の4段階で表します。

段階	4	3	2	1
評価	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切

評価項目1 教育理念・目標【平成30(2018)年度評価：4】〔平成29年度評価：4〕

- (1) 教育理念に目的と育成人材像も記載されていて明確である。
- (2) 社会の変化に対応した将来構想の策定は、学校の存続に係る重要事項である。
- (3) 連携企業(K I S E I)との連携により、実習課目に反映され、活性化されている。

評価項目2 学校運営【平成30(2018)年度評価：4】〔平成29年度評価：3〕

- (1) 運営方針や事業計画が明示され、これに沿った運営がなされている。
- (2) 教職員の高齢化に対応し、採用と育成に取り組んでいる。
- (3) 学籍関係のソフトウェアシステムの更新を費用対効果を勘案しつつ、計画的に行う予定である(成績・出席関係等)。
- (4) 学内組織図(校務分掌表)に基く、組織内(上下左右)の意思疎通の円滑化が図られている。
 - ① 部門間の円滑な連携。
 - ② 防災を意識した組織運営。
- (5) コンプライアンス体制は整備されている。

評価項目3 教育活動【平成30(2018)年度評価：4】〔平成29年度評価：4〕

- (1) 厚生労働省と文部科学省の双方のルールに則した運営を継続することが重要である。
- (2) 習熟度が不足する学生に対する指導法は、継続した研究を要する。
- (3) 連携企業との協力関係を継続することが重要である。
- (4) 継続して、学校内外の必要と判断される研修に参加することは、教職員のスキルアップを図る上で重要である。

評価項目4 学修成果【平成30(2018)年度評価：3】〔平成29年度評価：3〕

- (1) 美容師国家試験合格率100%達成は、学生と就職先企業双方にとって有益である。
- (2) 退学率の低減は、学生・保護者・学校の三者にとって有益であるから、継続して対応を求める。
- (3) 卒業生の組織化を進める具体策への着手を促す。
卒業生の動向調査が必要(3年以内の離職率(転・退職の把握))
進路指導部がアンケート用紙等を本人及び就職先へ送付し、集約する。

評価項目5 学生支援【平成30(2018)年度評価：3】〔平成29年度評価：3〕

- (1) 心身両面の健康管理をサポートするには、それなりの投資が必要になる。教職員スタッフが、個々の学生に目を配り、早目の対応を継続してほしい。
- (2) 高校との連携は、出張授業を実施する場合、本校学生の授業実施に支障を来さない範囲で、社会貢献にも配慮しつつ可能な範囲での対応でよい。
- (3) 宮城県内外の公共交通機関を利用した通学に困難な地域に自宅のある学生を対象とした住宅補助制度や学生技術大会等出場者への経費補助を行っており、就学支援としては十分である。

評価項目 6 教育環境【平成 30(2018)年度評価：4】〔平成 29 年度評価：4〕

- (1) 連携企業との良好な関係により、実践力を養成する環境は整備されている。
- (2) 昨今の無差別テロまがいの事犯への防御は難しいところではあるが、施設としては対応可能な範囲での体制は整えられている。

評価項目 7 学生の受け入れ募集【平成 30(2018)年度評価：4】〔平成 29 年度評価：4〕

- (1) 募集活動は継続して適正(高校訪問, インターネットメディア活用, ガイダンス, TVCM等)に実施されている。
- (2) 学校としての総合的な指導体制(資格(国家試験合格率)取得支援や進路保証(就職率)等の実績に基づく)は、妥当な学納金額を示していると判断される。

評価項目 8 財務【平成 30(2018)年度評価：4】〔平成 29 年度評価：4〕

- (1) 財務状況及び会計監査は適正と認められる。今後も財務基盤の安定のために、少子化を前提に、支出に注意し、適切な予算編成・執行の継続を求める。
- (2) 継続して財務状況はホームページ上で公開されており、情報公開の実行が認められる。

評価項目 9 法令等の遵守【平成 30(2018)年度評価：4】〔平成 29 年度評価：4〕

- (1) 継続して法令等の遵守と個人情報の保護については、適切に周知され、遵守されていることが認められる。
- (2) 継続して自己評価結果の適切な公開の実行が認められる。
継続して改善に取り組むことを求める。